

サークル活動による読書指導

足利地区学校図書館愛好会（略称SLAC）

1 はじめに

昨年度の教育論文集で「サークル活動による図書館の研究」と題して本会の実践記録を公けにした。が、初めて本書に接する方のために本会の紹介を簡単にしておきたい。発足は昭和42年5月で、会員は足利地区の学校図書館関係職員有志。目的は図書館教育活動についての悩みや疑問点を話しあって解決につとめることである。会合は毎月1回で土曜日の午後を利用する。発足当時は「公費による事務職員の採用のために」調査や運動に力を入れた。その後、43年1月から読書指導が共通の話題として、とりあげられ現在にいたった。

今回の記録は、昨年度の記録に続く第2集で、満2年間にわたる読書指導についての会員の研究の記録をまとめ、広く先生方の御叱正を仰ぐことにした。

2 実践のねらい

わたしたちが読書指導について関心をもったのは、特定の目的で図書室（館）を利用する者はともかく、何か本を読んでみたいと考えながら何を讀んだらよいか迷っている者や読書意欲の低い者に対する指導の必要性を痛感したのが第一の理由である。当時、全国学校図書館協議会で選定した中学生向の必読書は、選定の基準が高く、古典や良書にとらわれすぎたきらいがあって、ごく限られた生徒が利用するに過ぎなかった。そこで、各学校の実情に則して「推せん図書」（西中）を別に選定したり、読書力の低い生徒のために図書の購入について研究しなければならなかった。

はん濫するマス・コミの印刷物の中から何を生徒に与えたらよいか。選定の尺度（※Ⅰ）があっても、それを活用する時間が足りない。各学校の図書館係り教師は、図書受け入れ整理に追われている。かといってほかの先生方に多くを期待することもできない。そこで、「教師自身が読書の時間を生み出そう」「生徒に対して自信をもって図書の紹介ができるようにしよう」という願いから、会合のたびに会員から推せんされた図書を宿題として読み、その本に対する感想や生徒の反応状況について次回に話しあいをもつことにした。

下記の研究図書紹介は、会員の話しあいをまとめたものであるが、分担して執筆したために多少の執筆者の私観もはいつている。しかし、わたしたちは、この記録を参考にして先生方がご自身で研究されることを予想しているので、お含みおき願いたい。なお、図書の通し番号が○で囲まれたものは昨年10月に「生徒の発達段階に則応するように」改訂された中学生用必読書（※Ⅱ）（全国学校図書館協議会必読図書委員会選定）と一致したものである。（以上文責 二中 嶋田）

3 研究図書（45年2月現在）

- 1 「日本の愛の詩」 土橋治重編 理論社 195P（ジュニアライブラリー）¥600

「現代詩入門」の役目も果たす本で、特に戦後の詩を多くとり入れ、愛情をうたった詩80編を10章に分類して解説をつけたもの。詩人たちが愛というものをどのように考えたかがわかり、甘いやさしさでなく、広く深く強い愛が描かれている。武内利栄の「行水」、峠三吉の「八月六日」などのような戦争の傷痕を長く語りつく作品、小熊秀雄の「馬の胴体の中で考えていたい」のように自由に対

する希求のはげしさが全編にみちている作品、不正へのはげしい怒り（「更迭」天野美津子）など、レベルの高い注目すべき作品が多い。〔中学高学年・成人向〕

2 「はだかの天使」 赤木由子 新日本出版社 119P ¥560

全国に約5・6百万もいる心身障害児（者）、約3百万人もいる精薄児（者）が安心して暮らせる世の中にしなければならないという作者の願いが強くこめられている感動的な小説である。

こういうこどもをもった親きょうだいの苦しみ、先生の苦勞、それに反して無理解な社会、そんな中でリョウちゃんは天使のように清らかに成長していく。いきいきした文章、びっくりさせられる事件の連続、息もつかさず読まされてしまう。そしてリョウちゃんやサエ子ちゃんたちのために、微力ながら私たちも何かしてあげなければと思う。

末筆ながら、こころみ学園の川田昇先生も「短い文章の中に精薄児の問題がほとんどすべてとっていいくらいまとめられています。」と読後感を寄せられたことをお伝えしたい。〔小学校中学年から成人まで、広くあらゆる人に向く〕

③ 「宿題ひきうけ株式会社」 古田足日 理論社 202P (ジュニアロマンブツク) ¥480

とってもおかしな題だ。ほんとうに宿題をやってくれる会社があったら、とても楽だろうな、そんな軽い気持ちでこの本を読み始めた。しかし読むにつれて、この本がそんなにやさしい本でないことに気づいた。わたしたちが考えなければいけない問題が、たくさん書かれていたからだ。

そのなかでも、もつとも大切なことは「勉強はなんのためにするのだろうか」という問題である。これは大いに考えさせられた。（一中一年生徒の感想文より）〔小学校高学年向必読書・中学生にも向く〕

4 「道子の朝」 砂田 弘 盛光社 282P ¥480

道子の母がガンであると1年の生命と診断されたとき、平和な家庭は不幸のどん底に落ち込んだ。しかし、道子は父から、父母の青春と結婚のいきさつを聞かされ、父母を前よりもっと尊敬するようになる。母は死ぬが、父の留守を守って道子はりっぱに母の死に耐える。雪の朝、母の遺体の眠る病院へ向かう父娘の姿は、実に感動的だ。母の死をのりこえて強く生きる道子のたくましさは、いったいどこから得たものであろうか。これをとらえることは中学生にとってむずかしいようだが、これが本書の課題だと思う。〔中学校中学年向〕

⑤ 「八月の太陽を」 乙骨淑子 理論社 204P (ジュニアライブラリー) ¥600

西インド諸島のハイチ島独立のために命をささげた黒人指導者トウセンと、黒人たちの戦いを描く歴史小説。熱帯の太陽の下、火炎木の赤い花がゆれる楽園ハイチ島は、コロンブスに発見されてからわずか50年で原住民は滅び、奴隷の島と変わってしまった。読者は、この本から12年にもわたる長く苦しい独立戦争の意味を肝に銘じて知ることができるだろう。そしてまた、真の英雄の姿を、ト

ウセンの生き方によって知らされるだろう。トウセンの偉大な人間像は読者を魅了して、やまない。女性とは思えぬ力強いタッチで、むずかしい戦争の場面など書きこなしている。〔中学校高学年向〕

6 「魯迅」 丸山 昇(訳・編) 小峰書店 249P (世界偉人自伝全集 19) ¥580

日本留学時代の藤野先生との心のふれあいと、イギリスその他の侵略を受けた当時の中国がどうであったかが、伝記を通して読者に強い感動をよびおこす。社会科で学習する中国の歴史にうるおいを与え、将来、魯迅、ひいては中国を理解するためのガイド・ブックともなろう。訳文は平易で流ちょうである。〔中学校高学年向〕

⑦ 「コロンブス」 古田足日 盛光社 213P ¥420

作者の言葉「(ヨーロッパ人は日本を発見した。)(コロンブスがアメリカを発見した。)」というが、日本人やアメリカ原住民から見れば、かれらは自分の国にやって来た最初の白人に過ぎないのだ。」これまでの世界の探検家、前人未踏の事業家コロンブスとしてではなく、社会的背景を明らかにし、人間尊重をうったえた作品。長いあいだ絶版中であつたが、こんど中学生向必読書に選定され再版されるようになった。〔中学校中学年向〕

⑧ 「夢を掘りあてた人」 ヴィーゼ作 大塚勇三訳 岩波書店 314P ¥700

ドイツの牧師の子どもとして生まれたシュリーマンは、小さい時からホメーロスの詩にひかれていた。青年時代に働きながら数か国語を独習。幸運の女神にも守られて大商人として成功。その利益は念願のギリシヤで古代の遺跡発掘に当てられた。不屈の意志に燃え、自らも土にまみれながら。

正確な筆致でロマンスもおこみ、シュリーマンを現代によみがえらせた作者の手腕は、すばらしい。ゆたかな夢を育てるためにも中学生にすすみたい伝記小説。〔中学校中学年向〕

9 「『岩宿』の発見」 相沢忠洋 講談社 220P ¥390

ある小学生が作者に「考古学を勉強したい」と書いて送ったら、「そのためには学校の勉強をしっかりとしなさい。成績がよくならなかったら、やめなさい」という返事が来た。足利のでできごとである。

生活の苦しさに負けず、ついに桐生市近郊で旧石器時代の遺物を関東ローム層で発見するまでの本人の記録。難解な用語が多く、中学生のために書かれたのではないから、生徒には抵抗が大きい。前項の「夢を掘りあてた人」の日本版ともいえる。〔中学校高学年から高校向〕

10 「生命の神秘をさぐる」 シュベン作 秋元寿恵夫訳 偕成社 227P (少年少女世界ノンフィクション(22)) ¥390

題名の「生命の神秘」については訳者が巻末の〈解説〉で答えてくれるだけで、原著者の題名は「人間・顕微鏡と生物」だから、この本の題名と内容は日本訳

に関する限り一致しないし、期待外れにおわる。外国人を対象として書かれているので日本人に身近かな記事がでてこない。にもかかわらず、この本をとりあげたのは感想文の課題図書だったことと医学に関心のある生徒には役だつだろうから。むしろ、訳者が、みずからの考えで「生命の神秘をさぐって」書いてほしかった。〔中学校高学年・高校向〕

11 「下町の故郷」 早乙女勝元 理論社 221P ¥440

少年の日、劣等生で孤独だ た作者が暗い戦争の時代とその後をどう生きぬいたか。1メートルの高さにもなったメモと日記の山をノートに整理し、サークルで発表した「生いたちの記」が反きょうを呼び、単行本となって陽の光をあびるようになった。戦争のほんとうの姿と現在のおとなたちがどのような青春を送ったかを中学生に知らせ、力強い人間の生き方を学ばせたい。〔中学校高学年向〕

12 「砂」 ウリアム・メイン作 林 克己訳 岩波書店 280P ¥550

この本をとりあげた動機は「読書感想文コンクール」の課題図書だったからである。内容はイギリスの少年たちが砂の上で遊んでいるうちに、昔の線路や動物の骨を掘りおこすまで。訳文の会話の部分が不自然で、淡々とした物語だから読みにくい。しかし、イギリスの学校が、昔の日本のようにきびしいことや、「子どもだからといってあまやかして書かない」という作者（児童文学者）の執筆態度は注目される。〔中学校中学年向〕

13 「少年少女おはなし日本歴史」 和歌森太郎ほか（編集委員） 岩崎書店 全15巻 各巻 ¥580

全15巻を大きく「原始・古代・中世編」「近世・近代編」「現代編」の3部に分け、さらに各巻では各章ごとにかんたんな解説をつけたあと本文をいりゅうふうに、こまかく配慮してある。また内容は日本だけでなくその時代の世界の情勢も書いてあり、漢字には、ふりがながついているから、教科書では、とりつきにくい生徒にも抵抗が少なくなっている。〔小学校高学年・中学生向〕

14 「祖国へのマズルカ」 プロシュキエヴィチ作 吉上昭三訳 学習研究社 291P ¥390

ほん訳なので、形容語句が多く読みにくいが、後半から迫力がでてきて、一見女性的な印象をうけるショパンの人となりについて、改めて考えを新たにさせられる。芸術家としてのショパンだけでなく激動期におけるかれの思想をさぐり、燃えるような祖国愛をもつショパンの人間像がうきぼりにされている。作者は、ポーランド国家文学賞を得ている。〔中学校中学年向〕

15 「少年少女おはなし明治維新史」 高橋磯一ほか（編） 岩崎書店 全5巻 ¥680

「おはなし明治維新史」と同様、講談調で、おもしろく読める。明治政府が、国民を指導したり啓蒙する方法より、牛の鼻づらを引き回すように権力を行使する策に走ったり、国民の要望をおさえて権力者の安泰を図るために先手を打っていた事情などがよくわかる。ともすれば、ありあまる自由をもてあましがちな現

代人のいましめとなる書といえる。〔中学校中学年向〕

- 16 「死の艦隊」 ホルスト作 関 楠生訳 学習研究社 282P (少年少女学研文庫)
¥300

5せきのカラヴェル船はセビリヤの波止場から、セヴリア市民やスペイン全国民に送られて、すべり出した。これから偉大な冒険が始ったのである。

マゼランの世界一周は、かれの勇気と何事にも決心をまげず、どこまでもやりぬく精神と、不安と戦いと飢えと苦難に耐えた13人の乗組員によって成されたのだ。多くの犠牲者によって発見された航路は後続の航海者が何の心配もなくたどっていけるようになったのである。昭和44年読書感想文コンクール課題図書。

〔中学校中学年向〕

- 17 「肥後の石工(いしく)」 今西祐行 実業之日本社 299P (長編少年少女小説)
¥400

「石は生きとるんだぞ。石にも心があつての、はばたいてよるたい。ゆだんすると、かみつきよる。やさしゆうしてやると、石は何もせん。石はじつとだまっておる」岩永三五郎は石工頭である。身分の低い者は人間とも思わない時代、上の命令には絶対従わなければならない時代の中で、鹿児島によばれた三五郎は、ひとり生きて村に帰ったために、殺し屋からは狙われ、石工の家族や乞食の子供たちからも背かれる。そんな苦しみに耐え三五郎はついにすばらしい橋をまた作ることができた。〔中学校中学年向〕

- 18 「沖繩の子ら」 日本教職員組合・沖繩教職員組合共編 合同出版 243P ¥290

「沖繩」から思い浮べることは何か。マスコミによって報道される沖繩、それは一部の事実である。この本では、小学生から高校までの沖繩の子らの生活、生活を通しての意見が、作文・詩・版画に結集されている。ある中学生は、本土の子が「日本語を話せるか」とか沖繩とアメリカをひとつに考えちがいをしているといきどおっている。「私たちも日本人だ！」という叫びを深く胸に刻みこみ、真の沖繩を知り、これからの本土復帰について共に考えることが、私たち日本人の急務ではなからうか。〔小・中・高校生向〕

- 19 「天保の人々」 かつお きんや 牧書店 275P (新少年少女教養文庫) ¥600

天保年間に飢饉がおきた。「百姓は生かさず殺さず、しばりあげろ」という奉行。農民たちは立ちあがるが、牢に入れられ殺され……。おとだけでなく子供は子供なりに考え、行動する。そして、知る。世の中のしくみ、本当にこわいものは飢饉をもたらす自然ではないのだ、ということ。

自然な方言、松吉という少年の口で語りかけるこの物語りは、人をぐんぐん引っ張り、登場人物と共に、はらはらしたり考えこませたりする力をもっている。

〔小学校高学年～中学生向〕

- 20 「星の王子さま」 サンニテグジュベリ作 内藤 濯訳 岩波書店 140P ¥600

「かんじんなものは目には見えない。心で見ないと」

皮相なものを見方をし、ものごとの奥にある本当のものを見落としがちな現代人にキラッと光る真実を与えてくれる。読みながら、心の中をみつめる王子さまのきれいな瞳を感じて、ハッとすることもある。「砂漠は美しい。何にも見えません。何にもきこえません。だけれど、何かが、ひっそりと光っているのです・・・」この文章のように、胸がドキドキするほど何か美しいものがひそんでいる、そんな本だ。〔中学校必読書〕

2.1 「大蔵永常」 筑波常治 国土社 219P (筑波常治伝記物語全集 1) ¥500

なによりも農民の生活が向上することを考え、日本の農業発展のために一生をささげた大蔵永常。

向学心に燃えながらも農家に生まれたため学問ができず、もちまへの探究心、正義感の強さから家を飛び出し諸国を歩き、各地の農業の特色をとらえ、それらを30冊あまりの本にあらわした。遅々たるものではあったが、わが国の農業発展に尽した力は大きい。

近代的農業経営が呼ばれている現代、わが国の農業基盤を築いた彼の業績を改めて見なおす必要があるだろう。〔小学校高学年・中学生向〕(小学校課題図書)

2.2 「柳のわたとぶ国」 赤木由子 理論社 261P (ジュニアライブラリー) ¥600

こんなにも天衣無縫な、すばらしい少女に会ったことがない。

広い満洲を舞台に精いっぱい生きようとしているヨリ子。ストーリーもさることながら作者の女性らしい綿密で思わずハッとさせられるような美しい描写がまた、楽しい。読み始めると止まるところをしらない。

とにかく、このすばらしい少女ヨリ子に一度ってほしい。思わず微笑みたくなり、ゆたかなものが胸いっぱいに広がってくるだろう。〔中学校中学年向〕

2.3 「人生のはじめ」 マルシャーク作 村山・北畑訳 理論社 234P ¥600

これは「森は生きている」でおなじみのソ連の児童文学者・マルシャークの自伝。劇で上演されたのを2回見たが何回見てもよいほど感動しているので、その作者の自伝ということで興味があった。

天才少年マルシャークなのだが、教育ママ的なものはもちろん、英才教育的なもの微塵も感じられない淡々としたお話である。しかし、この天才少年を暖かく包み、自然に開花させる環境があった。ロシア革命の前夜、激動の時代ではあったが、いや、だからこそ個性豊かな人々にめぐり会えたのであろうが・・・

とにかく、これから伸びてゆく少年少女にとって人間の可能性を信じさせる好著である。〔中学校高学年向〕

2.4 「くろ助」 来栖良夫 岩崎書店 230P (少年少女歴史小説) ¥480

この本の題名の「くろ助」と「鉄砲金さわぎ」の2編が収められているが、どちらもこれまでの歴史には現われなかった人々の姿が描かれている。「くろ助」

は遠くアフリカから送られ品物のように献上され、やがては「犬であろう」と言われ、悲劇の幕を閉じる。しかし、作者の暖かい目は歴史を掘り起こし、それらの人々の心を見つめることによって、人間の歴史が変わるといっているようだ。文章も気どらず、ユーモアが漂い、おもしろい。〔中学生向〕課題図書(昭43)

25 「浦上の旅人たち」 今西祐行 実業之日本社 (創作少年少女小説) 265P ¥580

キリシタンにとっては、あまりにも長く、苦しい旅だった。250年間、ひそかに信仰を守り続けてきたキリシタンの“強さ”を政府は恐れたのだろう。口では文明開化を唱えながら、明治政府は異教徒にきびしい迫害を加えた。しかし、それにもまして浦上の信徒たちの信仰心は強固なものがあつた。混乱した世相の中に生きたキリシタンの苦しみの生活を描いた感動の書。〔中学校中学年向〕

26 「ゲンのいた谷」 長崎源之介 実業之日本社 ¥560

敗戦の色がこくなって東京から疎開した学童だった主人公が、さまざまな矛盾や苦しみの時代をどう送ったか、壁にかいた絵の怪物に夢を託して書いてある。戦争のほんとうの姿を、小学生の生活だけでなく、まわりの人々のそれをもとらえることに成功した作品。〔小学校高学年～中学生向〕小学校課題図書(昭44)

27 「橋のない川(第一部)」 住井すゑ 新潮社 316P ¥350

エッタとさげすまれて差別を受ける「小森の子」たちが、暗いバックにめげず雑草のようにたくましく明るく伸びて行く姿に感動を受ける。時代を明治期にとり、登場者は関西弁を使い、字数もギッシリ、むずかしい語句も多いというハンディキャップがあるが、作者の「真のいみの人権尊重」とは何かという命題が強く読者の心をゆり動かす。「夜明け前」に比べ、屈辱を受ける人々を群像としてとらえ美しく描いている。〔中学校高学年～成人向〕

執筆担当	{	1～5	一中	小泉先生	(ただし、3は同校1年生 殿岡利津子)	}	(注)
		6～15	二中	嶋田 "			会員として他に木村
		16～17	西中	大滝さん	(事務職員・司書補)		(吉)先生(山辺中
		18～20	"	川上先生)がいるが、多忙の
		21～22	"	飯塚 "			ため、一部、執筆を
		23～25	"	高田 "			変更し、本原稿締切
26～27	"	嶋田 "		りに、まに合わせた。			

4 生徒の反応

サークル会員によって検討された上記の図書は「推せん書」の中に加えられて別置き、リストを生徒に配付(西中)したり、随時、図書の紹介をし、読者の感想を求める(二中)方法や、授業、学活時に、ご自身の感動をそのまま生徒に伝え、読んできかせる先生(一中)によって、生徒の反応を確かめてきた。

以下の表は、西中で調査した44年8月から45年1月までの半年間、研究図書に対する生徒の読書順位である。()内は読者数。

1. 星の王子さま(23)
2. 道子の朝(22)
3. 「砂」「死の艦隊」(各19)
5. 「天保の人々」「下町の故郷」(各16)
7. 宿題ひきうけ株式会社(13)
8. 祖国へのマズルカ(8)
9. 「日本の愛の詩」「沖縄の子ら」(各4)
11. 「柳のわたとぶ国」「ゲンのいた谷」「コロンブス」「八月の太陽を」(各3)
15. 「夢を握りあげた人」「浦上の旅人たち」「人生のはじめ」(各2)
18. 「大蔵永常」「肥後の石工」「くろ助」「岩宿の発見」(各1)

(注) 1. この表で、3～5位にある「砂」「死の艦隊」「天保の人々」は読書感想文課題図書であったため利用者が多かったと考えられる。

2. 「橋のない川」は西中で推せん書に加えてないので、この順位には出てこない。推せんを控えた理由は、①「夜明け前」ほど古典でなく ② 部落民(エッタ)に対するいわれの無い差別について同書は、歴史的掘下げ(説明)が不足し、事前指導が必要であると考えたためである。

【考察】 単数または少数の係教師で図書の採択をする場合、判断をあやまらないように留意しなければならない。2年ほど前、サークルで「星の王子さま」について話合ったとき、「一読したところ童話のようでつまらない。という声に対して、若い女性教師や生徒の読後感は好評だった。この調査でも1位を占め、今度の「必読図書」にも加えられている。このため、わたしたちサークル会員は「グループによる読書の研究」の重要性を痛感している。

5 おわりに

(1) いつ、だれが読ませるか

学級担任による読書指導については、坂西中で2年の歳月をかけて研究中であり、学校で読書の時間を生み出してやるための「朝の10分間読書」(西中)と「集団読書」については前号の「教育論文集」でふれているので、重複をさげたい。

(2) 何をどう読ませるか

全国学校図書館協議会(以下SLAと略記)の選定した「必読図書」は名前ほど強制的なものでなく、「せめてこの程度は読んでほしい(SLA事務局長)」という意図に基づくものだが、読書力や読書意欲の低い生徒には、かなりの抵抗が予想される。[次項(3)参照]そこで地域生徒の実態に応じた学校ごとの「推せん図書」または「読書の手びき」作成が必要となろう。このため、わたしたちサークルの研究した図書が役立ってくれることを願っている。

(3) 今後の課題

中学校向必読書は50冊あり、その利用状況を二中の例で見ることとする。同校は、各4冊宛計200冊を購入し、そのブックリストを学級担任に紹介してもらい、教室ごとに掲示した。配架以来1カ月間の生徒の利用はつぎの通りである。

① 利用者の多い図書 14冊 []は帯出者数

[3名以上] 「君たちはどう生きるか」「二年二組はヒヨコのクラス」「八月の太陽を」「アンネの日記」「二年間の休暇」「キューボラのある町」

[2名以上] 「路傍の石」「二十四の瞳」「われらの村がしずむ」「橋のない川」「あしながおじ

さん」「あらしの前」「赤毛のアン」「ツバメ号とアマゾン号」

② 利用者のない図書 【帯出者数〇】 20冊

「わたしが小さかったときに」「エイプリルカーン」「アンナプルナ登頂」「細菌とたたかった人々」「明治維新につくした人々」「うたの心に生きた人々」「デモクリトスから素粒子まで」「ピアンキ動物記」「ソビエトの科学」「こぐま星座(上)(下)」「黒海の波(下)」「坊っちゃん」「しろばんば」「肥後の石工」「ニワトリ号一番のり」「オオカミに冬なし」「赤い小馬」「ザボンの花」「ロックの王様」

この結果については、①3年生が入試を前に多忙であること ② 必読図書選定以来日が浅く、指導やPRの不足 ③調査期間がみじかいなどを考慮に入れなければならないので、今後も引き続き調査を続けていくつもりである。そして、わたしたちサークル会員の推せんする図書だけでなく必読図書(SLA選定)についても「読まれる本」と「読まれない本」を分析し、その対策を研究して行きたい。(以上文責 二中 嶋田)

参考図書 (※1) 資料採択基準・・・文部省「学校図書館の管理と運用」東洋館出版社 ￥230 に所載

(※2) 必読書・・・「何をどう読ませるか(第4群中学校)」全国学校図書館協議会発行 ￥860

評

国語科改訂学習指導要領では、読書指導の充実が強調されているが、国語科の読書指導はそれとして、学校教育の全領域で読書指導を強力に推進する必要が生じてきている。その中心が図書館の読書指導であることは言うまでもない。

最近、子どもの読書量の不足の現状から各校とも読書指導に目を向け、具体的な方策をたてて実践していることは喜ばしいことである。

当実践記録は、図書館サークルの先生方が多忙な中で、熱心に研究されたもので、特に読書指導に目を向けたこと、とりわけ、その基本となる図書の選定にあたって、いちいち図書を読み、子どもの実態をふまえて適書を選定されたことである。

とかく図書の選定にあたっては図書館協議会の選定図書を安易に与える傾向があるが、子どもにすすめる以上、教師の目をとおしてぜひ適書を与えたいものである。当研究の中のものはその意味で安心して子どもにすすめることの図書である。